

ようこそ人間コミュニケーション学科へ！

人間コミュニケーション学科 <http://www.hc.uec.ac.jp/>

H-1 ~ H-4

人間コミュニケーション学科は、現代の高度コミュニケーション社会が抱える諸問題を、通信・ITなどの理工系技術の側面と、その運用やコンテンツなどの社会・文化的側面の両面から総合的に研究・教育する、新しいタイプの学科です。

コミュニケーションメディアやシステムの技術的な特性を踏まえながら、現代の情報化社会におけるコミュニケーションの形態・役割・機能・問題点をさまざまな観点から分析し、創造的に問題解決するための教育・研究を推進しています。

このオープンキャンパスでは、人間コミュニケーション学科の、文理にまたがる多彩で活発な研究・教育活動をわかりやすく紹介します。きっと興味深くご覧いただけるものと思います。是非お越しください。

研究室等公開（13：00～17：00）

H-1 学科相談コーナー&学科パネル展示

西6号館1階ロビー

人間コミュニケーション学科について知りたいあなた！まず西6号館の1階ロビーにいらしてください。教員と学生が待機しており、みなさんの質問に丁寧にお答えします。

ロビーには、たくさんある研究室がどのような研究・教育をしているかをまとめたパネルを展示しています。これを見ることで、社会、メディア、科学技術と、多くの領域にまたがる問題に取り組んでいる学科の姿について、具体的なイメージをもつことができるでしょう。

さらに、学内LANに接続したコンピュータで、人間コミュニケーション学科のホームページを見ることができます。インターネットを通じて学科の特徴を実感してください。

H-2 ヒューマンメディア工房

西6号館4階401号室

ヒューマンメディア工房は、人間コミュニケーション学科の「ものづくり教育」環境で、従来あった「メディア工房」に新規設備を導入して2007年に設立されました。情報メディアに関して、技術だけでなく、人とのインタフェース（たとえばWii）や人の生活を豊かにするコンテンツやサービス（たとえばYouTube）までを統合したかたちで、デザイン・制作することを目標にして、学生が自分たちの創意を形にすることを支援します。

環境の紹介と前身「メディア工房」の制作例等を紹介いたします。

H-3 研究室公開「メディアコンテンツのデザインと制作」(兼子研究室)

西6号館4階402号室

動画とCGを中心にしたメディアコンテンツの分析・デザイン・制作をおこなっています。兼子の本来の専門はメディア理論・イメージ理論ですが、研究室では理論を応用して実際のコンテンツやサービスをつくることをしています。たとえば動画配信と漫画を組み合わせると何かあたらしいことができないか、SecondLifeのようなWEB3D空間を使って教育をおこなうことができないか、動画を意味的に検索するシステムをつくることができないか、などが課題です。当日は研究例のデモンストレーションをおこないます。

H-4 研究室公開「快適なビジュアルコミュニケーションを支える技術」(高橋研究室)

西6号館2階207号室

最近では、コンピュータグラフィックスや画像処理を施していない映画、CFを探すのが困難なほど、映像生成・処理技術が世の中に普及してきています。また、インターネット、携帯機器の発展にとともに、膨大な映像リソースが世の中に氾濫するようにもなってきています。このような状況で、画像・映像を介したビジュアルコミュニケーションを通して快適な生活を支援するためのコンピュータグラフィックスや画像処理の技術の一端を皆さんに御紹介します。

H - 5 研究室公開「新しいヒューマンインタフェースとワイヤレス通信技術」(中嶋研究室)
西6号館6階601号室

ユビキタス社会に向けた、携帯ウェアラブルインタフェース、臨場感通信、マンナビゲーションの実験的研究を行っています。

また、高機能アンテナ、光・電波技術融合などの基盤研究も行っています。

H - 6 研究室公開「安心と安全の科学」(吉浦研究室)
西6号館6階601号室

安心と安全は、太古の昔から望まれてきた人間存在の基本概念です。ユビキタステクノロジーや知能技術などの技術の発展に伴い、これらの技術を使って家庭や学校などの日常生活、社会生活をより安全にしたいという要求が高まっています。安心と安全の科学は、公平、信頼、プライバシー、アイデンティティ、面白さなどより広い概念まで対象とするように広がってきます。当日は、吉浦研究室の学生が行っている研究を紹介します。

H - 7 研究室公開「複雑系の謎に迫る - マルチエージェントと社会シミュレーションへの誘い」
(高玉研究室) <http://www.cas.hc.uec.ac.jp/index.html>
西6号館3階307・309・311号室

コンピュータの中で複数の賢いプログラムがやりとりすると、何か起こりそうな気がしませんか? 高玉研究室では、このような相互作用から生まれる不思議な創発現象(例えば、3人寄れば文殊の知恵など)の謎を解き明かすとともに、その知見を応用しています。当日は、最新の研究である災害時の舟運輸送計画、宇宙輸送機の荷物配置最適化、複数ロボットの宇宙太陽発電衛星の組み立て、駆け引きをするエージェントの交渉などを紹介します。また、本研究室取り組んでいる「電通大から人工衛星を打ち上げようプロジェクト」で開発した宇宙用ローバのデモも行います。

H - 8 研究室公開「触覚 心を伝える究極のコミュニケーション」(梶本研究室)
西3号館4階402号室

人間のコミュニケーションの手段は映像や音声に限りません。髪をなでれば安心し、手を握りあえば心が通じるように、コミュニケーションの究極には触覚があるようです。梶本研究室は触覚を中心としたヒューマンインタフェースの研究に取り組んでいます。当日はいくつかの試みを体験展示の形で紹介します。

H - 9 研究室公開「インターネットの次には何がくるか」(市川研究室)
西3号館309号室

無数のワイヤレスセンサが集める情報をコンピュータ処理すると実世界で起こっていることが理解でき、現在は解決困難な問題を解決し人間コミュニケーションを革新できると期待されます。市川研究室では、ワイヤレスセンサを地球規模でネットワークングすることを目指して、新しいネットワークアーキテクチャを研究しています。

H - 10 研究室公開「ITの経済的・社会的インパクトの研究」(福田研究室)
西6号館5階501号室

ICT(情報通信技術)は、現代のプロメテウスの火です。それははじめて一般の人びとに、自らの運命を切り拓く強大な力を与えました。しかし、それが災厄をもたらすか、あるいは幸せをもたらすかは、我々一人ひとりの透徹した理性と主体的で勇気ある行動にかかっているのです。当研究室では、ICTのインパクトをトータルに把握するための射程の大きな理論構築(基礎社会情報学)に関わる一方で、理論のアクチュアリティを検証するために、生活世界(ないしコミュニティ)の情報化にも実践的に取り組んでいます。

H - 1 1 研究室公開「**広告や言葉を通した人間の認知能力の探求**」(坂本研究室)

西6号館5階505号室

人間には、視点の投影と推移、事態解釈、メタファー、知識形成をはじめとする 様々な認知能力が備わっています。認知能力と深く関わる具体的に考察可能な対象を分析することは、直接探求することが難しい認知能力を理解するための手段として有効です。私たちの研究室では、日常無意識に用いている言葉や、無意識のうちに目にしている広告を採り上げ、人間の認知能力との関連で考察し、言語、広告、そして人間の認知能力の解明を目指しています。このような関心のもとに行っている最近の研究例を紹介します。

H - 1 2 研究室公開「**メディア芸術のポテンシャルを探る ~情報、デバイス、素材、インタラクションのデザイン**」(児玉研究室)

西6号館4階405号室、西3号館3階301号室

児玉研究室では、新しい素材、電子デバイス、コンピュータ、通信技術を応用しながら、世界中の人々に愛されるメディア芸術の創造に取り組んでいます。芸術を、人間の身体能力のすべてが関わるコミュニケーションと捉え、環境・情報・インタラクションデザインの方法論を、実践的な作品へ展開します。今回のオープンキャンパスでは、「跳ね星」「モルフォタワー」等を展示します。